

医局薬局勉強会

平成 12 年 11 月 6 日

早崎知幸

## 甘麥大棗湯

### I. 出典

婦人~~蔵~~躁<sup>イ</sup>、喜悲傷シテ哭セント欲シ、象神靈ノ作ス所ノ如ク、数欠伸スルハ、甘麥大棗湯之ヲ主ル。(『金匱要略』婦人雜病論)

### II. 構成生薬と薬能・方義

小麦：甘涼。能く肝陰の客熱を和し、心液を養い、煩を消し、<sup>イ</sup>溲を利し、汗を止む。

(緩和鎮静、脳神経の興奮を静める。)

甘草：甘平。心火を瀉し、胃を和す。

(切迫した筋の拘攣・神経の興奮・諸疼痛等を緩解する)

大棗：甘温。胃を調え、上壅の燥を利す。

(甘草と同じ)

以上の3つの薬味は皆甘味の剂で、急迫を緩め、心気を養うというものである。

### III. 使用目標

本方は、体力中等度あるいはそれ以下の人で、神経過敏、全身または局所の筋肉の硬直あるいは痙攣のある場合に用いられる。

このとき、あくびをし、不眠を訴え、悲観的になり、または興奮する傾向がある。腹部には腹直筋の緊張が認められることがある。

### IV. 適応症

小児夜~~低~~啼症、ヒステリー、神経症、不眠症、チック

その他、更年期障害、自律神経失調症、ひきつけなどに用いられることがある。

## V. 古典

### 1) 『校正方輿げい』—有持桂里—

此の方は金匱に婦人藏躁とあれども、男女老少に拘わらず、妄りに悲傷哭する者に一切之を用いて効有り。蓋し甘草、大棗は急迫を緩めるなり、小麦は靈枢に心病宜しく小麦を食ふべしと云い、千金に小麦は心気を養ふと云ふ、凡そ心疾にて迫るものに概用して可なり。

### 2) 『類聚方広義』—尾台榕堂—

藏は子宮なり、此の方の藏躁を治するは、能く急迫を緩むるを以てなり。孀婦、室女平素憂鬱無聊にして夜々眠らざる等の人、多くは此の症を發す。發すれば則ち悪寒發熱、戰慄錯語、心神恍惚として居るに席を安ぜず、酸泣すること已まず。此の方を服すれば立ちに効有り。又癩症、狂症、前症に髣髴たる者もまた奇驗あり。

### 3) 『勿誤藥室方函口訣』—浅田宗伯—

此の方は婦人藏躁を主とする薬なれども、凡て右の腋下臍傍の辺に拘攣や結塊のある処へ用ゆると効あるものなり。又小兒啼泣止まざる者に用いて速効あり。又大人の癩に用ゆることあり、病急なるものは甘を食いて之を緩むの意を旨とすべし。

## VI. 類方鑑別

抑肝散： 虚実中間証、神経過敏で興奮し易いが、本方証のような急迫症状は訴えない。

桂枝加竜骨牡蠣湯： 虚証、疲れ易い。臍傍に動悸を触れる。腎虚証で虚陽が上浮した  
もの。

半夏厚朴湯： ヒステリーの的というよりノイローゼ的傾向。気鬱と咽中炙爛の症状がみ  
られる。

柴胡桂枝乾姜湯： 虚証、心虚の症あり。不安、神経過敏、不眠等あるが、急迫症状は  
ない。

## VII. 治験

.....  
〔14〕古方便覧／六角重任（年代未詳，本書の序文に1781年の記載あり）  
.....

28歳になる婦人が、理由なく悲泣してやまず、診ると腹皮が攣急し小腹に塊がある。甘麦大棗湯および消石大円<sup>①</sup>を与えると、4～5日で全癒した。

.....  
〔15〕 成蹟録／吉益南涯（1750～1813年）〔中川修亭輯録〕  
.....

12歳の女子がときどき悲傷し、神思恍惚として食が進まなかったが、甘麦大棗湯を与えて癒えた。

.....  
〔16〕 生々堂治験／中神琴溪（1743～1833年）  
.....

ある妻女が妊娠5ヵ月から水腫を患い、分娩のあとはいっそう甚だしく、一医がしきりと利水の方剤を用いたが効がない。ある日胸満、短気、煩燥して危殆に瀕し、周囲は慌てふためきなすところを知らなかったが、夜半になると病人が「腹上に津々と水流があるような感じがする」といい、皆がこれを怪しんで衣をひらいてみると、臍傍の腠理<sup>①</sup>が開き腫水が流れ出し、腫は半分以上去ってはいるが、なお大便溏泄して容体は極めて悪い。医者はさじを投げ辞し去った。請われて先生が診ると、脈微で指甲は暗黒となり、顔色は鮮白、四肢はまだなかば腫れている。腹を按ずると臍下は綿を皮で包んだもののような感じである。家人に小便はと問うと、病床についてから快く通じたことはまったくないという。そこで麦門木通湯<sup>②</sup>を作り与えると小便は快利し、時に大便も通じた。よってこの方を数十貼続けると腹皮は軟となった。その後痲を發し、昼夜の別なく狂呼妄言<sup>③</sup>し、先生が脈を診ようとしても目を見張り拳をあげて近づけようとしないう。よって甘麦大棗湯に転じ、100数貼与えろとしだいに回復した。

.....  
〔17〕 校正方輿輓／有持桂里（1758～1835年）  
.....

ある幼児が昼夜啼哭してやまず、甘連紫丸<sup>①</sup>、芍薬甘草湯なども効かない。試みに甘麦大棗湯を与えろと一兩日でやんだ。その後はこれを用いて児の啼哭を治すことが甚だ多くなつた。もとは婦人の臍躁、悲傷を療する方であるが、嬰兒にも効くものでおよそ薬に老少男婦の別はなく、たとえ方書に婦人、小児とあつても、必ずしも拘泥することはない。

.....  
〔18〕 橘窓書影／浅田宗伯（1815～1894年）  
.....

ある妻女が経閉して2ヵ月、外感に患り熱が甚だしく、煩渴、嘔逆して薬食ともに飲み下すことができない。私が竹皮大丸料<sup>①</sup>を与えろと2～3日を経て熱は解し、嘔吐がやんで食もやや進んだが、ある日急に悲傷を發し神靈に憑かれたような様子となった。驚いた家人が診を求め、門生が甘麦大棗湯を投じたところ翌日には悲傷がやみ、経水が暴下し血塊2枚を下した。（以下略）

## VIII. 最近の治験

- 1) 山城広明：甘麥大棗湯が著効を示した高齢者の感情失禁の1例。漢方診療, 13, 34, 1994.
- 2) 佐藤有子：甘麥大棗湯の不眠に対する効果。漢方診療, 12, 9, 1993.
- 3) 山城広明：甘麥大棗湯で軽快した長期疼痛患者の3例。漢方診療, 11, 36, 1992.
- 4) 板倉隆：「夜泣き」「寝ぼけ」に対する甘麥大棗湯の効果。漢方診療, 11, 44, 1992.
- 5) 村田良ら：憤怒けいれんに対する甘麥大棗湯の効果。第5回日本小児東洋医学研究会講演記録, 5, 29, 1989.
- 6) 小菅大介：重症心身障害児の情緒障害に甘麥大棗湯が著効した1例。漢方診療, 7, 39, 1988.
- 7) 金正義：憤怒けいれん・小児てんかん。最新の漢方治療指針, 1987.
- 8) 塚本祐壯：憤怒けいれんに対する甘麥大棗湯の臨床的效果。漢方医学, 8, 20, 1984.

## IX. 基礎的研究

- 1) 木村博：甘麥大棗湯によるコリン作動性誘発あくび行動の抑制。日本東洋医学雑誌, 49, 11, 1998.
- 2) 木村博：ラットにおける甘麥大棗湯のドーパミン作動薬誘発あくび行動に対する抑制効果。日本東洋医学雑誌, 48, 53, 1997.

## X. 自験例

【症例】 27歳 女性

全身性ジストニア

【現病歴】平成11年7月頃から前傾姿勢が出現。11月頃から強直性筋収縮（エビのよう  
に後ろに反る）も出現して薬剤性といわれ12月から入院した。薬を調節されたが、平成1  
2年2月頃からは頸が左に捻れる動きなども加わって、歩行困難となった。発作は長い時は  
数時間におよび、1日何十回も起こっていたが、心因性もあるといわれて8月に退院した。  
退院後も症状は変わらず、9月22日に当研究所を受診した。

【既往歴】19歳から不安神経症で精神科に通院していた。

【漢方医学的所見】舌診：やや乾燥、薄い白苔あり。脈診：沈虚。腹診：腹力は虚、腹直筋  
の攣急が左右で（±）、腹部動悸（±）、小腹不仁（+）。

リトリール  
アタネ

【経過】初診で抑肝散加陳皮半夏加厚朴しゃく薬を処方されたが変化なく、2診目（10月10日）に甘麥大棗湯を処方したところ3診目（10月24日）には発作の回数が減り、持続時間も短くなった。4診目（10月31日）にはさらに症状は改善傾向にあったが、家族と本人の希望で同日より入院加療中である。

アキネトン✓